

教員養成に対する理念及び認定課程設置の趣旨等

● 文学研究科人文学専攻の教員養成に対する理念

文学研究科人文学専攻は、「人間とは何か」を追究する人文学の諸分野、すなわち哲学、教育人間学、日本文学、中国文学・思想、英米文学、日本史学、東洋史学、西洋史学、文化動態学、現代東アジア言語・文化学、英語圏文化の11専修から構成されている。本専攻では、人文学の各専門分野に関する最新の研究手法や知識を身につけることを通じて、社会的要請に対応する知識・技能・経験を持ち、現代の多様な問題に対処できる高度な職業人となる人材の育成を目的としている。このような人材育成目的をふまえ、文学研究科人文学専攻では、共通の理念として次の3つの力を身につけた教員の養成をめざしている。

- (1) 人文学の学修をつうじて培われる高度な専門知識と深い洞察力にもとづき、人間としての生徒を理解し、適切に関わり合いながら、自らの見識をもって授業を展開することができる。
- (2) 人文学の学修をつうじて培われる幅広い視野とコミュニケーション力にもとづき、諸種の教育現場に主体的に参画して、学校運営をマネジメントすることができる。
- (3) 人文学の学修をつうじて培われる現代社会の要請に対応する知識と技量にもとづき、学校教育における諸問題とつねに向き合いながら、自らの教育力の持続性と向上を追求することができる。

認定課程の設置の趣旨

● 中学校教諭専修免許状（社会）

文学研究科人文学専攻では、11の専門分科にまたがる幅広い人文学の学知を基盤として、高い専門性を備えた教育と研究指導をおこなっている。先史・古代から近現代にいたる日本史上の諸問題を取り扱う分野（日本史学専修の科目群）、前近代中国の諸問題を取り扱う分野（東洋史学専修の科目群）、西欧からロシア・ビザンツをも包括したグローバルな歴史を取り扱う分野（西洋史専修の科目群）、さらには古代から現代にいたる西洋哲学（哲学専修の科目群）ならびに現代の教育問題を取り扱う人間学的分野（教育人間学専修の科目群）を主軸に据えることで、人間社会の歩んできた時間空間的に多様な道のをグローバルな視野に立って正確に理解し、確かな学力と深い人間理解を通じて教育活動を実践することのできる教員の養成が可能となっている。このことから、本専攻に中学校教諭専修免許状（社会）の取得可能な教職課程を設置するものである。

● 高等学校教諭専修免許状（地理歴史科）

文学研究科人文学専攻では、11の専門分科にまたがる幅広い人文学の学知を基盤として、高い専門性を備えた教育と研究指導をおこなっている。先史・古代から近現代にいたる日本史上の諸問題を取り扱う分野（日本史学専修の科目群）、前近代中国の諸問題を取り扱う分野（東洋史学専修の科目群）、西欧からロシア・ビザンツをも包括したグローバルな歴史を取り扱う分野（西洋史専修の科目群）、さらには古代から現代にいたる西洋哲学（哲学専修の科目群）ならびに現代の教育問題を取り扱う人間学的分野（教育人間学専修の科目群）を主軸に据えることで、人間社会の歩んできた時間空間的に多様な道のをグローバルな視野に立って正確に理解し、高度な専門知識と研究手法、さらには深い人間理解を通じて、大きな転換点を迎えている21世紀社会を深く洞察しながら教育活動を実践することのできる個性豊かな教員の養成が可能となっている。このことから、本専攻に高等学校教諭専修免許状（地理歴史）の取得可能な教職課程を設置するものである。

● 高等学校教諭専修免許状（公民科）

文学研究科人文学専攻では、11の専門分科にまたがる幅広い人文学の学知を基盤として、高い専門性を備えた教育と研究指導をおこなっている。古代から現代にいたる西洋哲学（哲学専修の科目群）、倫理学と現代思想、そして現代の教育問題を取り扱う人間学的分野（教育人間学専修の科目群）を主軸に据えることで、

人間社会の歩んできた時間空間的に多様な道のをグローバルな視野に立って正確に理解し、現代社会における諸課題の追究と解決に資する確かな学力と深い人間理解を通じて、正義と倫理をもった地球市民として教育活動を実践することのできる教員の養成が可能となっている。このことから、本専攻に中学校教諭専修免許状（公民）の取得可能な教職課程を設置するものである。

● **中学校教諭専修免許状（国語）・高等学校教諭専修免許状（国語）**

文学研究科人文学専攻では、11の専門分科にまたがる幅広い人文学の学知を基盤として、高い専門性を備えた教育と研究指導をおこなっている。国語学・日本語学ならびに上代から近現代にいたる文学作品の研究分野（日本文学専修の科目群）、中国語学ならびに中国文学と思想を取り扱う分野（中国文学・思想専修の科目群）、そして現代の教育問題を取り扱う人間学的分野（教育人間学専修の科目群）を主軸に据えることで、多様な文化と思想を背景に成立した言語や作品をしなやかな歴史的・空間的想像力と高度な教養・知識を通じて理解し、各教科の基礎となる国語運用能力ならびに言語・思考力・想像力にもとづくコミュニケーション能力を生徒に身につけさせることのできる実践的な教員の養成が可能となっている。このことから、本専攻に中学校教諭専修免許状（国語）と高等学校教諭専修免許状（国語）の取得可能な教職課程を設置するものである。

● **中学校教諭専修免許状（英語）・高等学校教諭専修免許状（英語）**

文学研究科人文学専攻では、11の専門分科にまたがる幅広い人文学の学知を基盤として、高い専門性を備えた教育と研究指導をおこなっている。英米を中心とする英語文学・文化に関する研究分野（英米文学専修の科目群）、英語学ならびに英語圏の地域文化を取り扱う分野（英語圏文化専修の科目群）、そして現代の教育問題を取り扱う人間学的分野（教育人間学専修の科目群）を主軸に据えることで、高い水準の英語力を習得し、言語表現の可能性に関する明敏な感性と英語文化圏に関する高度な知識を通じて、英語（コミュニケーション）力を生徒に身につけさせることのできる実践的な教員の養成が可能となっている。このことから、本専攻に中学校教諭専修免許状（英語）・高等学校教諭専修免許状（英語）の取得可能な教職課程を設置するものである。

●文学研究科行動文化情報学専攻の教員養成に対する理念

文学研究科行動文化情報学専攻は、人文学と情報学を有機的に統合する諸分野、すなわち地理学、文化情報学、考古学・文化遺産の3専修から構成されている。本専攻では、人文学と情報学を有機的に統合し、かつ人文学や情報学の各専門分野に関する最新の研究手法や知識を身につけることを通じて、社会的要請に対応する知識・技能・経験を持ち、現代の多様な問題に対処できる高度な職業人となる人材の育成を目的としている。このような人材育成目的をふまえ、文学研究科行動文化情報学専攻では、共通の理念として次の3つの力を身につけた教員の養成をめざしている。

- (1) 行動文化情報学の学修をつうじて培われる高度な専門知識と深い洞察力にもとづき、人間としての生徒を理解し、適切に関わり合いながら、自らの見識をもって授業を展開することができる。
- (2) 行動文化情報学の学修をつうじて培われる幅広い視野とコミュニケーション力にもとづき、諸種の教育現場に主体的に参画して、学校運営をマネジメントすることができる。
- (3) 行動文化情報学の学修をつうじて培われる現代社会の要請に対応する知識と技量にもとづき、学校教育における諸問題とつねに向き合いながら、自らの教育力の持続性と向上を追求することができる。

認定課程の設置の趣旨

● 中学校教諭専修免許状（社会）

文学研究科行動文化情報学専攻では、3つの専門分科にまたがる人文学と情報学の有機的統合とその学知を基盤として、高い専門性を備えた教育と研究指導をおこなっている。人文地理学・自然地理学・地誌学という伝統的な範疇にくわえて GIS を活用した地理情報学を含む地理学分野（地理学専修の科目群）、そして考古学ならびに文化遺産に関する分野（考古学・文化遺産専修の科目群）を主軸に据えることで、人間社会の歩んできた時間空間的に多様な道りをグローバルな視野に立って正確に理解し、確かな学力を通じて教育活動を実践することのできる教員の養成が可能となっている。このことから、本専攻に中学校教諭専修免許状（社会）の取得可能な教職課程を設置するものである。

● 高等学校教諭専修免許状（地理歴史科）

文学研究科行動文化情報学専攻では、3つの専門分科にまたがる幅広い人文学の学知を基盤として、高い専門性を備えた教育と研究指導をおこなっている。人文地理学・自然地理学・地誌学という伝統的な範疇にくわえて GIS を活用した地理情報学を含む地理学分野（地理学専修の科目群）、そして考古学ならびに文化遺産に関する分野（考古学・文化遺産専修の科目群）を主軸に据えることで、人間社会の歩んできた時間空間的に多様な道りをグローバルな視野に立って正確に理解し、高度な専門知識と研究手法を通じて、大きな転換点を迎えている 21 世紀社会を深く洞察しながら教育活動を実践することのできる教員の養成が可能となっている。このことから、本専攻に高等学校教諭専修免許状（社会）の取得可能な教職課程を設置するものである。